



病気の予防



犬の寿命は、少し前までは12歳～15歳と言われていましたが、医学の進歩や健康的な飼い方のおかげで、年々延び、現在では15歳～18歳程度とされています。

世界的には28歳まで生きた犬もいると報告されています。

いずれにしても、病気やケガで亡くすこと無く、寿命を全うして欲しいと願うばかりです。

犬の病気で代表的なものは、『狂犬病』です。

この病気は犬の文字が入っていますが、犬だけの病気ではなく、人間も含めてすべての乳類に感染します。通常は、保菌している動物に噛まれることにより感染し、その後発症します。

いったん発症してしまいますと死亡率はほぼ100%という怖い病気です。

人間にも感染することから狂犬病予防法という法律があり、すべての犬は年に一回、

必ず予防注射をしなければならないと義務づけられています。

日本では30年以上、発症例はないのですが、すぐお隣の韓国や中国も含め

世界では毎年、数万人が亡くなっている怖い病気です。

犬にはその他に、感染後48時間程度で死に至る病気や、直つても神経中毒を起こす病気など特有の怖い感染症もあります。これらの感染症は、通常、1年に1回のワクチンなどで予防します。

ワクチンには予防できる病気の種類により、3種から5種、7種、9種、10種などいろいろな程度があります。予防できる病気の種類が増えれば、より安全となりますが

ワクチンの費用も種が増えるにつれて高くなります。

病気の中で、一番死亡率が高いものに『フィラリア症』というものがあります。

それは菌やウィルスではなく、犬の血管などに寄生する寄生虫です。

目に見えないくらいの小さな虫は、普段は蚊の体内におり、蚊にさされることにより

犬の体内に入り込みます。血管の中を移動しながら成長し

最終的には犬の心臓や心臓近くに寄生します。

その頃の虫の体調は40センチにもなり、細い糸のようになります。

放っておくと、犬の体内でどんどん増え、中には数百匹が寄生していた例も数多くあります。

寄生され、血を吸い取られることも問題ですが、より深い問題は、虫の死後に起こります。

この糸状の虫は、死ぬと丸く球状に固まります。その固まりが血管をふさぎ、犬を殺してしまうのです。

そのことからいったん寄生されてしまうと、薬品で殺すわけにも行かないため

虫の寿命である6年間程度は、体内に時限爆弾を抱えているようになります。

ただ現在はとても良い予防薬があり、感染前に飲み薬を与えれば

100%感染を予防することができます。これから犬を飼う人にとっては、必須の予防薬となります。

その他にも、犬特有の病気や、近年増えてきたアレルギー症状などの知識も必要ですが

それらは次の機会にお話するとして、まずは人にも感染する狂犬病、

急死する可能性もある感染症、そして100%予防のできるフィラリア症は

愛犬家であるならば絶対に知っておき、予防すべき病気です。



2021年10月

NPO 法人ワンワンパーティークラブ 三浦 健太 著

